

ARTS for HOPE 活動報告書

2018年3月10日～12日

①3月10日／熊本県阿蘇市 東池尻団地 「Happy Doll Project」の実施

東北への追悼を捧げながら、熊本を遠征した3日間。現在も道路や橋が分断され支援の手が行き届きにくい阿蘇市で、全5カ所の仮設団地を訪問しました。1日目は15世帯が暮らす最も小さな東池尻団地へ。「きっかけは震災だったけど、こうしてみんなと出会えたよ。」と支え合い、助け合いながら暮らす住民の皆さん。熊本地震からまもなく2年。「東北の皆さんも大変じゃろう…」と、震災から7年を迎える東北に思いを向けられていました。



「久しぶりに針もったあ…。」脳梗塞を患い、不自由になった手で懸命に針を動かし、時間をかけて素晴らしい作品を創り上げた住民さん。仮設に迷い込み、怪我を負った子猫を救出。その子猫とそっくりな猫を、知らず知らずのうちにつくっていたと、しみじみと感動されていました。住民の代表を努めるご夫婦は、団地の管理にご苦労も多い日々。「今日はハッピードールのおかげで休戦」と笑顔を見せました。



②3月10日／熊本県阿蘇市 黒川団地
「Happy Doll Project」の実施

2カ所目は24世帯が暮らす黒川団地へ。子どもから90歳のおばあちゃんまでが参加し、みなし仮設で暮らす周辺住民さんも足を運んでくれました。





「出かけるはずだったけど、予定を変更して遊びにきた」というみなし仮設の住民さん。沈みがちな気持ちが晴れたと、喜びの笑顔を見せました。終始表情を変えず、静かに黙々と作品をつくっていた女性も、最後には表情が和らぎ、ほかの住民さんの作品をにこやかに鑑賞していました。

③3月11日／熊本県阿蘇市 北塚団地 「Happy Doll Project」の実施

2日目は北塚団地へ。仮設に越してきて以来、目が見えなくなり、耳も聴こえなくなり、どこにも行くことが出来ず、動けなくなってしまったご主人のために、触って感じられるものをつくってあげたいと、柔らかい生地を選び、特大のハートをつくったおばあちゃんとの出会いがありました。3.11のこの日、思いはやはり東北へ。「みんなそれぞれに大変な思いをしてきたけんね…。」悲しいことも辛いことも、ともに経験してきた皆さんの明るい笑顔。その笑顔が、何物にもかえがたい、東北への応援メッセージとなりました。



④3月11日／熊本県阿蘇市 三久保団地 「Happy Doll Project」の実施

4カ所目は三久保団地へ。3.11を迎えた東北に思いを巡らせながら、「あんときは本当にこわかった」と自身の経験と重ね合わせ、震災当時の恐怖を語ってくれました。住民さんたちは、開始前から集会所でスタンバイ。始めはぼんやりした表情だった最高齢のおばあちゃんも、手を動かしているうちに創作意欲がムクムクと沸き上がり、次第にはっきりとした意思を見せはじめ、驚くべきことに、いくつも作品を完成させました。



「誕生日が一緒！」ふとしたことから高橋と誕生日が同じ住民さんが2人もいることが判明！信じられないような奇跡の出会いが、またひとつ、ここにもありました。

⑤3月12日／熊本県阿蘇市 内牧団地 「Happy Doll Project」の実施

19世帯が暮らす内牧団地は、比較的若い世代が多く、再建に向けて動き始めていました。代表の住民さんは「震災後、本当にたくさんの人たちに支えられた。その恩返しになれば」と、仮設に来て初めて出会った人たちを取りまとめ、団地の運営をサポート。「今日、働きに出てしまったみんなにも<ハッピードール>のことを伝えたい」と特大のハートをつくり、集会所に展示していました。



自立に向けて動き出してほしいと、他の団地より小さなみんなの家